

### 『映画きかんしゃトーマス 勇者とソドー島の怪物』

2014年／ロブ・シルベスタリ監督作品

凄いぞ。トーマス。

会員 神永 矩誠 (64期)



© 2015 Gullane (Thomas) Limited.

2001年の秋、当時高校生だった私は『ワイルド・スピード』（2001年／米／ロブ・コーエン監督）という映画を見た。ロサンゼルスを舞台にしたストリートレーサーたちを題材としたカーアクション映画だ。この映画を見た私は、カッコいい車に乗りたいと思えばスポーツカーの雑誌を買い、自動車免許も在学中に取得して車に乗るなど、少し変わった高校生活を送っていた。また、同作に出演するポール・ウォーカーのようなイケメン俳優になるには、どのようにしたら良いかと真剣に考え、まずは鼻を高くしようと、夜な夜な鼻を引っ張っていたのは私だけの秘密である（これが功を奏し、少しだけ鼻が高くなった私は、私には不釣り合いなほど素敵な奥さんと結婚することができた。きっとこのお陰に違いない）。また、同作に出演するヴァイン・ディーゼルのようなムキムキにもなりたく、通販でベンチプレスを購入して筋トレに明け暮れたのが、2002年の高校2年生の春だった（当時は“シックスパック”という状態だったが、その後は肘を痛め、柔らかなお腹となり、横線だけが残った）。同作のシリーズは第7作まで続き（2015年／米／ジェームズ・ワン監督）、第7作で車がパラシュートを付けて空を飛んでいるのを見て度肝を抜かれた（撮影のために本当に車を飛ばしたことを最近知り、更に度肝を抜かれた）。それだけに、ポール・ウォーカーが40歳で亡くなったことは、本当に残念でならなかった。

この他にも、14歳の秋に『マトリックス』（1999年／米／ラリー・ウォッシュスキー監督）を見て頭を

鍛え、18歳の夏に『マトリックス リローデッド』を見て頭から煙が出る経験をし、16歳の冬に『オーシャンズ11』を見てブラッド・ピットに憧れ、20歳の冬には『Mr.&Mrs. スミス』（2005年／米／ダグ・リーマン監督）を見てアンジェリーナ・ジョリーに胸を焦がし、そんなブラピとアンジーが交際をしていると聞いたときは、ブラピをけり飛ばしてやりたくなった。振り返れば、これまでに多くの映画をみて、驚き、悩み、感動し、ときには涙し、（筋トレもしたし、）映画をとおして、文字どおり心身ともに成長したと思う。

ここまで読んでいただけた方は、「トーマスはどうした!」と思うかもしれない。掲げたトーマスの映画は、トーマスが謎の巨大な足跡を発見し、やがて奇妙なものに遭遇するという話なのであるが、これに限らずトーマスの映画は、どれも秀逸である。実は、私には1歳の子供がいるが、ワンパクの盛りで、ジッとしていることが珍しい子なのである。そんな子供が、ここまでの筆を進める間、ずっと私の膝の上にあったのである。キーボードを触るなどのトラブルが起きてもおかしくない状況だが、ここまで何のトラブルもなく筆を進めることができた。ではなぜ何のトラブルも起きなかったか。それは、モニターの右側で原稿のWord、左側でトーマスのDVDが流れているからだ。うちの子供を静かにさせるなんて中々侮れない機関車だ。

子供とトーマスの映画に関することなど、書きたいことは山盛りなのだが、紙面が尽きたのと、トーマスが終わってしまったので、筆をおきたいと思う。